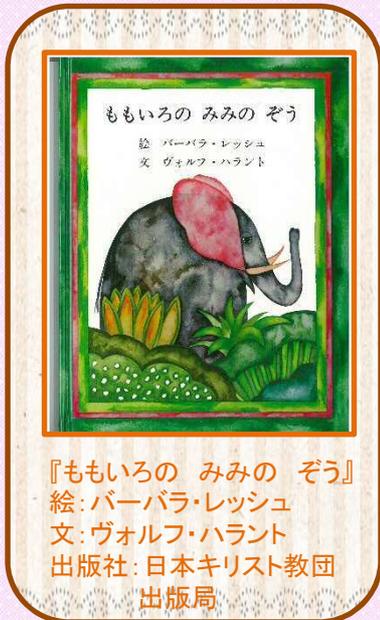


大好き！絵本

初瀬 恵美



『ももいろの みみの ぞう』
絵:バーバラ・レッシュ
文:ヴォルフ・ハラント
出版社:日本キリスト教団
出版局

今年度も、残りわずかとなりました。年長さんが卒園するまで、もう間近。今月は、年長さんに向けた一冊をご紹介しますと思います。

この絵本の『ももいろの みみの ぞう』というタイトルの後に始まる文章は「どこにいるの あそこ なにをしてるの かくれてるんだ どうして かかれてるの みみが ももいろだからだよ だれも あそぼうと しないのかい うん だれも あそぼうと しないんだ いや まてよ こぞうが やってきた」です。この始まりの文章を読んだ時、耳がもも色だからという理由で仲間外れにされている、ゾウの切なさを感じました。それと同時に、「どこにいるの」とたずねている人物は登場しない不思議さを感じました。また、この「天の声」のような問答の文章によりお話が、とても身近で、自分に向けて語られているように感じました。

この、もも色の耳にコンプレックスを持ち、孤独だったゾウに、子ゾウは「ぼくはそのみみが すきだよ きみは かっこいいよ」と伝えます。

それでも自信がもてないゾウを、子ゾウはしっぽで、ひっぱって、他の動物たちのところへ連れて行きました。もも色のゾウはやっぱり、みんなに笑われて、子ゾウも「きみの友だちは～」とバカにされました。

しかし、子ゾウは、ユーモアを働かせて、逆にもも色の耳だからこそ、見える世界があることを動物たちに伝えました。すると、バカにして笑っていた動物たちは、「なかまに ならないかい」と仲間になることをさそってきました。視点を変えれば、人と違う違和感が長所や魅力に感じることを、上手くつたえたのです。

大切な友達が、周囲からバカにされたとき、どんなふるまいをするといいのか、ユーモアを交えて教えてくれる絵本です。巣立ちゆく年長さんには、子ゾウのように、人と違った個性を持つ人を理解し魅力を発見できる人になってほしいと願っています。時には「ももいろの みみの ぞう」側の立場に立たされることもあるかもしれませんが、そのときは、理解して力になってくれる人が必ずいるはずです。その理解してくれる人は、家族であったり、ここで、遊んだ仲間たちであることを信じたいと思います。



そんな思いを込めて今月はこの一冊を選びました。

誕生日おめでとう

